

[大豆]

1. 作付の概況
平成29年度の作付面積は全国で150,200haとなり、前年より200ha増加した(前年対比100%)。九州では21,700haで、前年より500ha減少した(前年対比98%)。地域別では佐賀県、熊本県、宮崎県、鹿児島県で作付面積がやや減少した。特に熊本県では平成27年の熊本地震で被災した水田の復旧等が進んだ結果、前年より240ha減少した(前年度対比91%)。前年より作付面積が増加したのは長崎県だけであった。

2. 作況の概況
本年は梅雨明けが九州南部、北部とも7月13日頃で、南部で平年より1日早く、北部で平年より6日早かった。このため、播種は梅雨明け後の7月中後半を中心に行われ、7月末までにほぼ終了した。梅雨明け後から乾燥が続いたため、一部で出芽不良が認められたが、全体的には出芽苗立ちは順調であった。梅雨明け後から8月中旬頃までは高温乾燥が続いたため、初期生育はやや抑えられたが、徐々に生育が回復し、開花期頃までには生育が旺盛となった。

9月から10月の莢伸長～子実肥大期には台風18号(9/17頃)の接近や前線の影響等で曇天が続いたため、平年より寡照、長雨となり大豆の生育が抑えられた。収穫時期には晴天恵まれ収穫作業は順調に進んだ。病虫害では、「すずめおとめ」作付け地域で葉焼病の被害がみられた以外に目立つた発生はなかった。以上のように本年は、9月、10月の天候不良により子実肥大が抑えられ小粒傾向となった結果、九州全体の単収は160kg/10aにとどまり、平均収量は前年対比91%となった。ただ不作だった前年より単収は前年対比119%となった。前年対比119%となったのは長崎、沖縄を除いて下回ったが、前年対比117%、佐賀で127%と前年対比を大きく上回った。なお、全国の単収は、東北が前年対比85%となったり、北海道と九州の単収が前年対比106%、平均収量対比101%の168kg/10aとなった。収穫量は、九州では作付面積が前年対比98%となったため収穫量は前年対比116%の34,700tとなり、4,700t増加した。また、全国では作付面積が前年並みであったが、単収が前年対比106%と増加したため、収穫量は前年対比106%の252,500t増加した。

(大豆・資源作物育種グループ 高橋 将一)

平成29(2017)年度大豆作付面積と収穫量

県別	作付面積	10a当収量	収穫量	10a当平均収量 対比	前年との比較				
					作付面積		10a当収量	収穫量	
					対差	対比	対比	対差	対比
	ha	kg	t	%	ha	%	%	t	%
全国	150,200	168	252,500	101	200	100	106	14,500	106
九州	21,700	160	34,700	91	△ 500	98	119	4,700	116
福岡	8,410	161	13,500	91	△ 20	100	117	1,900	116
佐賀	8,150	185	15,100	95	△ 220	97	127	2,900	124
長崎	449	117	525	103	11	103	126	118	129
熊本	2,440	141	3,440	83	△ 240	91	99	△ 390	90
大分	1,700	93	1,580	87	△ 20	99	106	70	105
宮崎	233	112	261	96	△ 28	89	158	76	141
鹿児島	328	99	325	83	△ 27	92	118	27	109
沖縄	0	53	0	166	△ 1	0	156	0	nc

注) 農林水産省大臣官房統計部・農林水産統計Webサイト(平成30年4月10日公表)より引用。△は減少。